

青山学院大学の傾向と対策

★出題パフォーマンス (種類・形式・分野) ★

1. 学部別傾向

2021年入試から受験選択選択科目に大きな変化がありました。そのことで、完全な〈世界史B〉で受験できる学部(日程)が3つとなり、また、総合問題として世界史を出題する学部(日程)が2つとなりました。

もともと、学部別日程別傾向が少なからずあったことで、さらにその傾向は強くなりそうです。そのポイントは、〈配点〉〈出題形式〉〈用語のレベル〉〈戦後史出題の多さ〉の4点です。とりあえず、通史をしっかり終了させたのち、12月以降のラストスパートでは、世界史の学習量(時間)には気を配りましょう。

2. 年度別傾向

MARCHのその他の大学同様に、青学も同年流行が強くなってきていました。しかし、3学部と減ったことで、問題を作る側の負担も減っていることから、同じ問題を繰り返し出題するとは考えにくいです。気にするならば、類似する国や地域、1度出題された用語のある単元などをチェック出来たらプラスになるでしょう。

3. 問題数と出題範囲

大問は3つ、小問で40~50問程度。おおよそ、選択が2点、記述が3点という学部が多いです。記述は10問程度、残りは選択問題になります。イメージとして、西洋史が1問、東洋史が1問、テーマ史が1問といったところです。コンスタントに文化史は出題されますが、戦後史は、受験後半の2月18・19・21日の3日間に集中して出題されることが多かったです。

4. 出題形式

記述：記号選択=ほぼ1:3。記述は基本的な一問一答。記号選択は半分がリード文中の空所補充、残りの半分が、文章四択・組み合わせ正誤・人物業績選択です。学部にもよりますが、年代問題を2~3問出題する場合があります。空所補充や出来事の正順などです。無視すると1割程度は落とすこととなります。正誤問題は決して難しくなく、標準レベルです。正誤問題慣れさえすれば怖くありません。

5. 用語のlevel

頻度4以上(センターレベル)が約90%、頻度1~3が約10%。→基礎~標準知力だけ十分。ただ、文化史や社会経済史が出ると頻度4以上ながら苦戦します。盲点は潰しておきたいところです。戦後史は難しいですが、過去に出題されたものを繰り返す癖があるので、他学部も含め、戦後史の過去問は潰しておきましょう。

★傾向から読む絶対対策★

1. 学部別日程別配点

2/07 全学部入試	独自問題(英150 国100 世100) *文学部比較芸術学科・史学科は、国は150(英語と同じ) *教育人間科学部・総合文化政策学部は募集人数が多い
2/09 総合文化政策学部	総合問題(100) *現代史(19世紀後半以降) (共通 = 英:資格検定 国100 世100)
2/14 文学部(史学部)	独自問題(150) *記述・論述含む (共通 = 英100 国100 世100)
2/17 国際政治経済学部	論述(50) + 総合問題(50) *戦後史 (共通 = 英50 国25 世25)
2/18 法学部(A)	総合問題(200) *近現代史(17世紀後半以降) (共通 = 英150 [100] 国100 [150] 世50)
2/19 経済学部(A)	独自問題(英150 世100)

2. スライド出題が基本 *過去3年間の他日程の問題をチェック

- 同じ用語は出ないが、同じ単元や分野・テーマまたは類似したリード文(違う用語を出題)は繰り返し出るので、具体的な出題を確認すべし
- 例外は少しあるが、過去6年間で同じものが出題されるのは稀、よって、他学部の問題でまだ受験する学部に出題されていないモノを探し出せば命中!

3. テーマ史について

〈青山学院大学6か年データ〉の一覧表を見ても分かるように、大問3問中は1問がテーマ史になることが多いです。各国史(イギリス史など)・地域史(イベリア半島史など)は勿論、定番のテーマ史(医学史・文字史・奴隷史・遊牧民族史など)は他日程または併願する他大学の

テーマ史から演習慣れをしておく必要があります。しかし、その知力を学ぶことは困難なので、通史レベルで対応できれば十分得点できる設問になっています。＊立教大学のテーマ史に類似しているので参考にしましょう！

4. 正誤問題について

オーソドックスな四文選択問題ですが、日程によっては全体の3割を占めるときがありますので、軽んじることはできません。正誤対策は徹底させましょう。

5. 年代問題について

どの日程でも1割弱(2~3問程度)は出題されます。戦争(戦い)と条約・法制・反乱(内乱)・革命などの有名事件、王朝の変わり目、有名国王・皇帝の即位年などは単語カードでコツコツ暗記しておきたい。事件の流れや主体の動向などの並べ替えはやや難問として出題されま。ただ、全体の8%程度なので無理はしない方が良いでしょう。

6. 地図や資料の出題について

都市や地形や国の位置(地図は頻出ではないが、知らないと解けない)は必須。地理的要素があれば必ず資料集でチェックをしておきましょう。地図は〈都市〉〈川〉〈半島〉〈島〉が狙われやすいです。

7. 問題内容の狙いについて

【戦後史】

世界史での受験が残された学部は、総合問題も独自問題も〈史学部〉を除き、戦後史は無視できない学部です。しかし、過去に出題されたものが繰り返される傾向が強いので、〈気になるグラスノスチの〔戦後史〕〉を参照しながら、戦後史を詰めていきましょう。

◎大問1つでどっさり出題される可能性がある2月19日の経済学部は、戦後の経済史も見てください。内容的には、有名人物・有名事件が中心ですが、年代を聞かれているので注意！盲点となる国際組織・国際経済・核や環境問題などが好んで出題されるので、こちらも注意しましょう。

◎総合問題を出題してくる学部は、知識というよりネタです。近年国際問題になっている出来事や事件を理解度が重要です。夏期講習の〈世界史で国際問題を解決する〉講座の受講をお勧めします。

【文化史】

大問が文化史でなくとも必ず小問で登場する上に、必ずどの日程においても、3問以上(8%以上)は出題されるので、逃げることができない分野です。基本は一問一答や同時代選択や人物・業績の組み合わせだが、記述させられることが多いので、書いて覚える必要がある。西洋文化史の出題率が高く、その中では、〈ルネサンス〉～〈19世紀の文化〉は狙われやすいでしょう。東洋文化史は、宗教や学問的な用語がテーマになります。仏教・キリスト教・儒学・実学などに注目しましょう。